2015年11月11日[水] ▶ 17日[火]

京都市立芸術大学 大学会館ホール

入場無料・予約不要

メイクアップショー	11月11日[水]	17:00 - 17:30
パネルディスカッション	11月13日[金]	15:00 - 16:30
展覧会	11月11日[水] ▶ 17日[火]	10:00 - 18:00

11月11日[水]の開場は、メイクアップショー開催のため、16:30からとなります。

主催 | シュウ ウエムラ　京都市立芸術大学 ビジュアル・デザイン専攻

Makeup | 過去・現在・未来

shu uemura ■ kyoto city university of arts－visual design

2015年11月11日[水] ▶ 17日[火]

京都市立芸術大学 大学会館ホール　入場無料・予約不要

2015年は、化粧品ブランド shu uemuraの創始者 植村 秀が、1965年、自宅にメイクアップアトリエを開設してから50年目という祝祭の年。shu uemuraの軌跡、それはメイクアップを通して、世界のモード界の既成概念に革命的な変化をもたらした50年と言えます。植村 秀の哲学と芸術性から生み出された「モードメイク」は、その革新性から「エポックメイキングな事件」として語り継がれています。そして、shu uemuraが生み出しつづける様々なプロダクツやそのデザインは、「化粧品業界の革命」と称され、未来へとつづく普遍的な理念として、現在においても全く色あせることなく継承されています。輝かしい歴史を持つshu uemuraのアトリエ開設50周年を契機に、京都市立芸術大学 ビジュアル・デザイン専攻では、shu uemuraとの連携プロジェクトとして、[Makeup|過去・現在・未来]を企画・開催します。『展覧会』、『メイクアップショー』、『パネルディスカッション』という3つの企画を通して、新たな視点から「化粧すること」についての検証を行う本企画は、植村 秀/shu uemuraの業績とエポックに、「過去・現在・未来」という時間軸を絡ませ、アートと人類学の視点を加えることで「見る×見られる」という行為の再確認を行います。そして、それがアートやデザインにとって最も重要な自己、あるいは表現についての再認識に繋がるのではないかと考えます。

展覧会 | Exhibition

2015年11月11日[水] ▶ 17日[火]（期間中の土日 開館）
開館時間　10:00 ▶ 18:00（11日[水]初日は、16:30開場）

展覧会では、植村 秀/shu uemuraが展開し続ける哲学とそこから生み出された様々なクリエイションを紹介いたします。そして、新たな可能性を探り、制作されたビジュアルデザイン科 学生による作品展示を行います。

メイクアップショー | Makeup Show

2015年11月11日[水]　17:00 ▶ 17:30（開場 16:30〜）

「プシュケー | Psyche」をテーマとして、uchiide（shu uemura）によるショーを行います。

uchiide
シュウ ウエムラ インターナショナル アーティスティック ディレクター

1988年入社。植村 秀の哲学、DNAを引き継ぐメイクアップアーティストとして、製品やビジュアル開発に携わる。「アーティストの創造性は異文化、他流との交わりで創られる」という植村 秀の言葉通り、tsumori chisato, Yasutoshi Ezumi, Ujohなど様々なファッションショーのバックステージを手掛ける。また、村上隆、カール・ラガーフェルドなど様々なジャンルのアーティストたちとのコラボレーションを通して、日本国内外からの高い評価を受ける。

パネルディスカッション | Panel Discussion

2015年11月13日[金]　15:00 ▶ 16:30（開場 14:30〜）

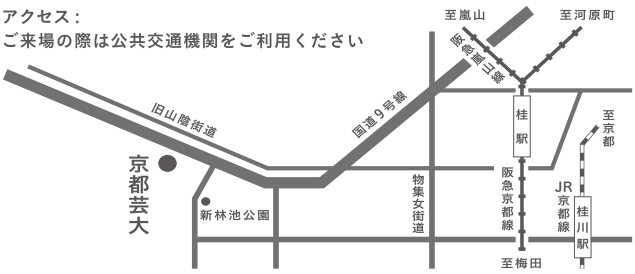
パネラー
吉田 憲司（国立民族学博物館・副館長）
uchiide（シュウ ウエムラ インターナショナル アーティスティック ディレクター）
鷲田 清一（京都市立芸術大学・学長）

進行
井上 明彦（京都市立芸術大学・教授）

見るって… 誰が？ 見られるって… 誰に？ 見せるって… 何のために？ 原始より、人は、何故「装う」のか？化粧の起源は顔だけに限定されません。全身をキャンバスにして様々な意匠をほどこし、顔〜からだ〜化粧〜衣服〜装飾といった連続性の内からその表現は完成してゆきます。そしてその多様な表現は、「私の顔」を変形し消失させてゆく、何らかの目的を持った「仮面をつける行為」であるとも考えられます。本パネルディスカッションでは、人類学的・哲学的見地から、化粧を起点に「装う」という行為について探ります。始原的な化粧といった行為を起点に「見る× 見られる」関係性の中からの様々な検証は、過去から現在、そして現在から未来へと人間が連綿とつづける創造の可能性の追求であると考えます。

Makeup | 過去・現在・未来

主催 | シュウ ウエムラ　京都市立芸術大学 ビジュアル・デザイン専攻

京都市立芸術大学　京都市西京区大枝沓掛町13-6 〒610-1197
PHONE：075-334-2200（総務広報課）　http://www.kcua.ac.jp

アクセス：
ご来場の際は公共交通機関をご利用ください